

中村確堂 あきつら 漢學者。天保二年十月八日近江國生れ。明治二十年二月四日歿（八三—一九七）。舊姓山縣、諱彝、字七訓、幼名彦吉、通稱三次（治）、鹿輪、中村昇五、中村鼎、中村（郵）鼎五。別號十三松堂、十三松外史、懷松堂、確堂仙史、確堂學人等。水口藩儒中村栗園の養嗣子。明治二年藩制改正（留）督學となり、大政官正院（修史館）に出仕。十一年己降埼玉、滋賀の學校に教鞭を執り、十九年京都に居住。

編著書、異太郎原稿『遜齋文鈔』（中村鼎五名、校訂、明治十一年十一月七日擁萬堂）、頼山陽口授 牧白峯筆記・龜谷省軒參訂『評本文章軌範』全二冊（編、明治十一年十一月二十五日龜谷行）一出版、石川治兵衛發兌）、『文章正鵠』全二冊（中村鼎五名、編、明治十一年一月敬文堂藏、内藤傳右衛門支店・宮鷺儀二郎發兌）、中村栗園著『栗園詩稿』（中村鼎五名、輯、明治十七年十月滋賀・令章堂）、『尚友小史・第一輯』中村鼎五名、明治二十五年十一月、二十八日混々舎藏、京都・北村四郎女衛門）等。

